

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果

令和7年 10月1日
京都市立衣笠小学校
校長 畑 武巳

令和7年4月17日（木）に、本校6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語・算数・理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力の関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果

国語、算数、理科の3教科ともに、全国平均を上回り、全体的にはとても良好な結果でした。

とくに、本校は全国や京都府の結果と比べると、すべての教科において無解答率の低さがあり、最後まで調査に取り組んでいる様子が伺えます。学習の内容についても、知識及び技能、思考力・判断力を問う問題の正答率が高くなっていました。一方で、すべての教科で「記述式」で回答する問題の正答率が低くなっている傾向がありました。自分の考えを言葉や文章として表現することに苦手意識があるように感じます。

学習に向かう意欲づけや効果的な課題の提示の仕方などを工夫することで、生き生きと自分の思いを表現できる子どもが増えていくよう、引き続き、日々の授業実践を進めていきたいと思います。

国語科より

全体として全国平均を上回っているものの、「読みとり」や「情報の扱い方」に関する問題の正答率が低くなっていました。必要な言葉をつなげたり、自分の考えを文章にしたりする表現力に弱さがみられるので、さまざまな情報や条件を活用しながら自分の考えを表現することが今後の課題だと考えます。

算数科より

全体として全国平均を上回っていましたが、領域別では、「図形」や「変化と関係」に関する問題の正答率が低くなっていました。図形を多面的な見方できらえること、さまざまな数値を正しく読み取り、判断すること、複数の情報を整理する力など、今後本校児童のつけていかなければならない力が明確にみえてきました。

理科より

全体として全国平均を上回っていましたが、領域別にみると、「エネルギー」と「粒子」に関する問題の正答率が低くなっていました。実験の結果をもとに、新たな学習問題を見出したりする問題で、考えをうまく整理できずに誤答している児童が多くいました。実験結果から考察する学習過程を丁寧にする事が重要であると考えます。

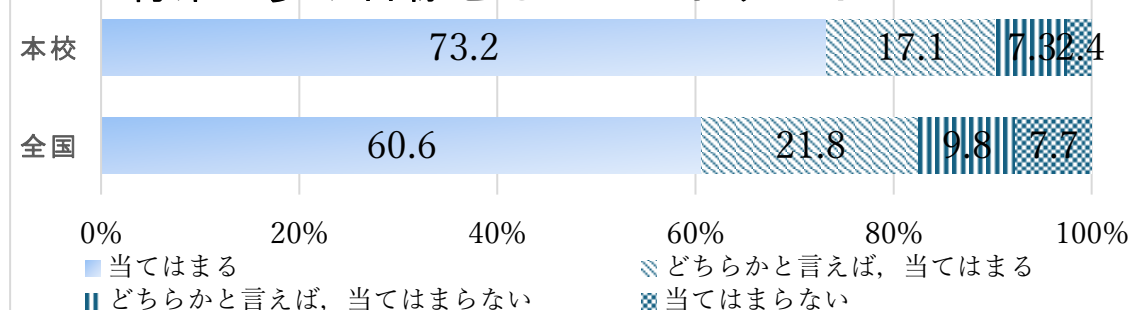
以上のような結果から、学校でも授業を通して改善に努めていきます。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより学力は定着していくものだと考えています。今後も引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。

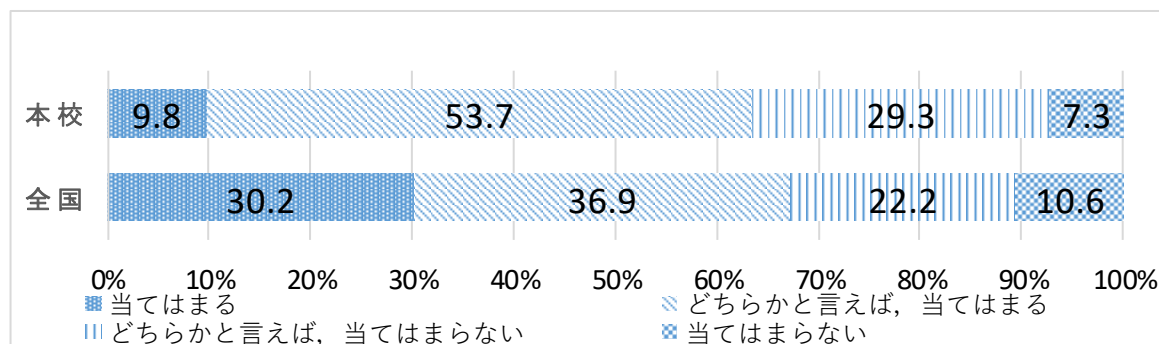
児童質問紙調査から

Q. 将来の夢や目標をもっていますか？



全国平均と比べ、本校児童は90.3%が夢や目標をもっていると回答しています。学校においては、一人一人のよさを認め、自己肯定感を高めていくことで、なりたい自分に少しでも近づいていけるように支援していきたいと考えています。

Q. 困りごとや不安がある時、先生や学校の大人にいつでも相談できますか？



全国結果と比べても、本校の結果は少し低くなっています。36.6%の子どもたちが相談できていないと回答しています。思春期という複雑な時期にさしかかる子ども達にとって、安心できる場所があるということはとても大切です。子ども達にとって学校・教室が、安心した場所となり、子ども達の心の声に耳を傾けれるよう努めていきたいと思います。

全体を通した本校の成果と課題

本校では、「人を大切にし 主体的に学ぶ子どもの育成」という学校教育目標のもと、保護者や地域の皆様の協力を得て、教職員一丸となって取組を進めています。

今回の結果から、本校の子ども達は、全体的に知識や技能が高く、最後まで集中して学習に取り組むことができています。今後その力をどのように活用し、正しく表現するために工夫していけるかが課題であると考えます。自分の持っている知識をもとに、その知識をどう活用していくかが求められています。複数の情報を読み取り、条件に合わせて表現したり、新しい考え方を生み出したりする思考力や判断力・表現力の育成がとても重要です。子ども達自身が考え、伝え合い、自らの力で課題を解決していける授業づくりに努めていきたいと思います。